

# 令和7年度 学校自己評価 (IVYM)

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

## ①教育理念・目標

評価項目	評価
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
・学校における職業教育の特色は明確化されているか	4
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	3
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

### [課題]

- ・三つのポリシーについて、入学時には学生及びその保護者(保証人)への周知は十分にできているが、アドミッションポリシーについては入学後も継続して、より一層の徹底と浸透を行う事が必要
- ・学科(専攻)ごとに定める育成人材像の周知が入学時に偏っており、2年次、3年次にも再確認を促す時間を持つべき
- ・教育の内容や目的が高校や学生、保護者に重文に周知する機会が少なく十分に伝わらない
- ・加速度的に技術革新が進んで行く分野なので、常に業界ニーズを把握する必要がある
- ・教育DXが進んで行くので、それに順応できるように常に教育の在り方を考える必要がある

### [今後の改善方法]

- ・ホームページ、Instagram、等を有効活用し積極的な情報公開を進める
- ・在学中に人材像や職業観、教育方針等を植え付けていく
- ・教職員が日常の教育活動の中で、学校の理念・目的・育成人材像を具現化するように努める
- ・年度始めに、2年次にはカリキュラムポリシーの振り返り、3年次はカリキュラムポリシーの振り返り及びディプロマポリシーの再確認をする時間を設ける
- ・関係者評価委員や業界の経営者に定期的にコンタクトを取り、業界ニーズや動向の情報把握に努める
- ・産学連携教育をより、強固なものにして業界ニーズを把握し、それに応えられるように教育内容を整える
- ・文部科学省が進める方策を常に把握し、それが実行できるように環境・人材を整える

### [特記事項]

- ・入学時のオリエンテーション、新入生研修で「専門分野の特性」「育成人材像」を考える研修を実施している
- ・入試でアドミッションポリシーの確認を行い、入学後のオリエンテーションで、学校の理念・目的・育成人材像の周知が出来ている
- ・医療機関が求める人材に対して対応は概ねできている
- ・様々な形で医療機関等との連携が実現できており、実務に対応した教育に積極的に取り組んでいる
- ・大分県に必要とされる専門学校として、県内就職率を上げていく必要がある

## ②学校運営

・目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
・人事、給与に関する規定等は整備されているか	3
・教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

[課題]

- ・人事評価に関して「目標シート」による評価が現状にそぐわない部分が見られる
- ・社会や業界の変化に対応した中長期でのビジョン・事業計画を再構築する必要がある
- ・人事評価の結果を給与額の適正な決定に反映させる仕組みが、十分に整備されていない
- ・業務効率化に関する意識の一層の醸成を図る必要がある
- ・業務の意思決定をする際に、一部の職員だけの意思に偏らないようにする必要がある
- ・上記のために、日頃から職員が自由に意見を述べることができる環境を整える必要がある

[今後の改善方法]

- ・人事評価と給与体系の再構築に取り組む
- ・私立学校法改正に伴う寄附行為改正に基いて、内部組織規則を整備・運用する
- ・会計年度内だけでなく、中長期の事業計画が必要
- ・人事評価の結果を踏まえ、給与額の適正性を客観的に判断するための仕組みが不十分である
- ・業務改善に関する定期的な検討・情報共有の機会を設けるとともに、業務フローの見直し及び標準化を進め、教職員の効率化意識の向上を図る
- ・業界や医療機関、調剤薬局との連携強化による教育へのアドバイスや講義の実施
- ・新規業務・事業を中堅職員以下に任せてみることも必要だと思う
- ・その際は、行き過ぎたものにならないように管理者がフォローする

[特記事項]

- ・下半期より「新人事評価システム」による評価を実施した
- ・人事評価の仕組みについて検討会を実施し、再構築した
- ・時代に沿った働き方や、コンプライアンス体制を整える必要がある

③教育活動

・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方針の工夫・開発などが実施されているか	4
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等がおこなわれているか	4
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントがおこなわれているか	3
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
・教員の能力開発のための研修等が行われているか	3

[課題]

- ・教員の教育力向上が課題である
- ・教育内容の充実を図るために、専門分野の人材確保のため、企業等との一層の連携が必要である
- ・教員確保に係る取組は継続的に実施しているが、確保は依然として容易ではなく、関連業界との連携による講師の確保については、現状を維持するにとどまっている
- ・各教員が受動的に研修を受けるのではなく、能動的に受講する仕組みづくりが求められる
- ・教職員自身の自己啓発に頼る部分もある

- ・最新の教育を実現するための教員確保が重要
- ・学生向けのカリキュラム更新は実施しているが、教員の自己研鑽システムが十分に確立されていない

[今後の改善方法]

- ・教職員の研究・自己研鑽を発信するため論文執筆を促し紀要掲載する
- ・職員の研究発表（学内学会）の実施
- ・学生のインターンシップの機会を増やすことで実務経験を積む
- ・学生が長期休暇になる時期に、職員の自己研鑽の場を設ける
- ・職員だけの学内学会みたいなものを実施したい

[特記事項]

- ・教員の教育力（指導力）向上のため、専門分野や教育関連の外部研修を受講（M校：18回）
- ・医療総合ビジネス学科の「職業実践専門課程」を申請し認可を受けた
- ・情報、医療ともに企業連携に向けた活動を積極的に行っている
- ・教員のモチベーションが常に保たれるような講演会なども実施したい

④学修成果

・就職率の向上が図られているか	4
・資格取得率の向上が図られているか	4
・退学率の低減が図られているか	4
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

[課題]

- ・卒業生の状況把握は定期的に医療機関・企業訪問等で実施しているが、より一層のフォローアップを行っていく
- ・資格試験不合格者の卒後フォローアップ
- ・卒業生に関する情報収集体制が十分に整備されていない
- ・卒業後の職場評価の把握
- ・卒業生の状況把握は必要に応じて実施しているが、十分ではない
- ・IVY同窓会をもっと活用して、卒業後のフォローアップをしていきたい

[今後の改善方法]

- ・就労先企業等からの聴取を通して、卒業生の活躍状況・評価について情報収集を行い教育活動にフィードバックする
- ・資格試験再受験のため、定期的に学内にて学修機会を設ける
- ・卒業生の状況把握を適切に行うため、定期的な調査の実施、連絡手段の多様化及び同窓会等との連携強化により、情報収集体制の構築を図る
- ・職場訪問の実施による状況調査
- ・随時企業との情報交換を行い、その内容を教育へフィードバックする
- ・同窓会主催で、卒業後の交流会や研修会などを年に数回実施したい

[特記事項]

- ・企業内表彰等の表彰式へ参加し卒業生の社会的な活躍を把握している
- ・卒業生向けのサブスクリプションサービスの導入を今後は検討していきたい

⑤学生支援

・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
・学生相談に関する体制は整備されているか	4
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
・学生の生活環境への支援は行われているか	3
・保護者と適切に連携しているか	4
・卒業生への支援体制はあるか	3
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

[課題]

- ・課外活動は縮小傾向にあり、運動系の課外活動は積極的な斡旋は行っていない
- ・リクルート課と教務との情報共有と連携強化を図り、細やかな指導・サポートの実施が必要
- ・卒業生への就職斡旋支援体制はあるものの、利用する卒業生の数が少ない
- ・就職課と教務の連携強化によるきめ細かい指導の実現
- ・運動系の課外活動がないため、現在は積極的な斡旋は行っていない
- ・クリエイティブな活動では、作品を発表する場が設けられていない

[今後の改善方法]

- ・現在活動中の課外活動の、成果の発表の場を作っていく
- ・リクルート課の体制を新たにし、支援体制の強化を行う
- ・卒業後のキャリア形成への効果を把握を強化することで、支援も強化される
- ・就職課・教務・総務の連携強化を図り就職活動をより一層サポートする
- ・運動系の活動は、学生主体の愛好会として実施する
- ・課外活動で制作した作品のお披露目会や外部コンペへの参加などを促していきたい

[特記事項]

- ・現在、「IVY Computer Circle」「IVY Gaming Club」「IVY プロモーション・ラボ」が課外活動として活動中
- ・学生の自主的な製作活動を支援するため、ものづくり教室を新設し内容の充実に努めている
- ・各担当課による経済支援、生活基盤支援、心身のサポート支援等を取っており、学生が安心して学生生活を送る体制が整っている

⑥教育環境

・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
・防災に対する体制は整備されているか	3

[課題]

- ・教育DXに対応した施設・設備を、随時、改修・更新を行う必要がある
- ・地域防災計画に対応した学校の防災計画の整備、並びに避難訓練の実施が必要
- ・学内外のインターンシップについて、企業数および期間ともに、まだまだ不十分である
- ・防災意識が不十分、防災訓練が実施できていない
- ・環境整備や研修体制を整えるために、時代にそぐわない事業・サービスへの出費を抑えていく
- ・自然に災害に備えるため、防災訓練・勉強会を実施する必要がある

[今後の改善方法]

- ・施設・設備は中期整備計画を策定し、計画的に改修・更新を実施する
- ・学校防災計画・学校防災マニュアル（危機管理マニュアル）を整備すると共に、避難訓練等を実施する
- ・産学連携をさらに充実するために企業と協定を組み、さまざまな形のインターンシップを取り入れる
- ・設備の更新について計画的に行う
- ・現在の事業・サービスの仕分けを実施
- ・防災の専門家による訓練・勉強会の実施

[特記事項]

- ・発災時の防災備蓄品を整備
- ・防災備蓄品を整備している

⑦学生の受入れ募集

・学生募集活動は、適正に行われているか	4
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
・学納金は妥当なものとなっているか	4

[課題]

- ・各高校、生徒、保護者にIVY教育を十分に理解してもらう機会を増やす
- ・大学進学傾向にある高校生へ専門学校の魅力を伝える場所の開拓が難しい
- ・防災意識が不十分、防災訓練が実施できていない
- ・高校側へIVY教育を十分に理解してもらう機会を増やす
- ・学生の学校生活が、高校生や一般の方に伝わるようにしたい

[今後の改善方法]

- ・学生の就職実績、資格取得、教育成果（外部コンテスト入賞等）の情報を積極的に広報する
- ・学校ホームページや、SNSを有効活用し、積極的な情報公開を進める
- ・大学編入の可能性を周知し、進学の目的に応じて大学・専門学校がいずれも選択肢となることを適切に伝える
- ・設備の更新について計画的に行う
- ・インスタの運用は開始できているので、ホームページの見直しを実施する

[特記事項]

- ・SNS（Instagram）でのフォロワー数も増加傾向
- ・連携企業各社、職業団体と協働した広報活動を展開している
- ・ホームページをリニューアルした
- ・連携企業各社と協働した広報活動を展開している

⑧財務

・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
・財務について会計監査が適正に行われているか	4
・財務情報公開の体制整備はできているか	4

[課題]

- ・中長期的財務基盤の安定のため、学生数を確保する取り組みが必要
- ・学校法人会計基準の改正に対応した財務処理、情報公開の実施に適切に備える
- ・各教職員が学校経営（学校財務）に関心を持ち、教職員全員が学校経営に携わる体系づくりが必要
- ・中長期的財務基盤の安定のために学生一定数の確保

[今後の改善方法]

- ・学校法人会計基準改正に対応した、新しい財務・会計の体制と情報公開の体制を整える
- ・中長期のビジョン・事業計画にもとづき、中長期の財務方針を整備する
- ・職員の学校経営への参画意識の向上を図るため、年度末又は年度当初に予算及び収支計画に関する説明・共有する機会を設ける
- ・節約に対する職員の協力体制

[特記事項]

- ・学生数は現状維持できている

⑨法令等の遵守

・法令、専修学校設備基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
・自己評価結果を公開しているか	4

[課題]

- ・コンプライアンス遵守状況は適正
- ・法令を遵守し、適切な運営をするために、法令に詳しい職員が必要

[今後の改善方法]

・

[特記事項]

- ・私立学校法改正にともなう寄附行為の改正をおこなった
- ・ハラスメントガイドライン、合理的配慮の提供等を運用中

⑩社会貢献・地域貢献

・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

[課題]

- ・現状のボランティア活動のみならず、地域自治会等へのボランティア活動に参加し地域住民の学校に対する理解や評価をあげる
- ・委託事業（短期・長期）を積極的に受託し、人材を輩出して社会に貢献する
- ・地域に対する公開講座の周知方法に工夫が必要。周知の対象が限定されている可能性がある
- ・ボランティア活動に参加する学生に偏りがある

[今後の改善方法]

- ・地域貢献活動の幅を広げ、学生自身が興味を持って積極的に参加できるようにする
- ・医療事務に関する公共職業訓練の委託事業の受託を目指す
- ・SNSを活用し、対象を限定することなく周知していく
- ・地域社会との連携
- ・できる限り多くの学生が、積極的にボランティア活動に参加できるように日時・回数の調整をする
- ・ボランティア活動の種類を増やし、学生が興味がある活動に参加できるようにしたい

[特記事項]

- ・体験型子ども科学館0-Laboが実施する大分県委託事業に協力、貢献している
- ・こどもプログラミング教室の実施、AIカフェ、人参サロンなど社会貢献の場としてスペースを提供している
- ・学生はボランティア等に積極的に参加している

以上が令和7年度の学校評価の結果集計です。様々な課題と改善策について意見をいただき感謝申し上げます。